

## 平成 25 年度 第 3 回 タウンミーティング 議事録

【開催日時】平成 25 年 7 月 14 日（日）午前 10 時 30 分～正午

【会 場】もとおおくぼ 1 丁目児童遊園 集会所

【申込団体】本大久保 1 丁目熟年クラブ

【参加者数】29 名（市長、市職員を除く。）

### （1）本大久保 1 丁目熟年クラブ 代表あいさつ

### （2）市長あいさつ

皆さん、おはようございます。習志野市長の宮本泰介です。

本日は、本一町会の皆様にこのような機会をつくっていただきまして、誠にありがとうございます。

また、本一町会には島田前副市長がお住まいということで、7 月 10 日をもって退任されましたけれども、本当に島田副市長には大変お世話になりました。

昨今、情報化社会になりまして、いろいろな情報が取得しやすくなり、便利になりましたけれども、逆に言うと、情報がありすぎて、何の情報を信じていいのかわからない、というような場合もございます。

今、参議院選挙が行われている最中ですが、今回、一番大きな違いというのは、皆さんご存知だと思いますが、インターネットを活用した選挙活動が解禁になったということです。インターネットをされない方には、ちょっと縁遠い部分もあるかもしれませんが、インターネットを使いますと、簡単に言えば世界中の人と話ができるということです。

今までは、ラジオを聴いたり、テレビ放送を見たり、新聞・雑誌・広報などを読んだりというのが、情報を得るためのひとつの手段だったと思います。また、例えば、この会合の資料を見て、何か意見を言いたいときは、ほとんどの方が紙に書いて意見を出すか、電話をするか。ですが、今の時代というのは瞬時に、インターネットですぐに発信できます。

昔は、放送局の人たちや新聞社の人たち、とにかく限られた人たちが、多くの人に向けて情報を発信するという構造でしたが、今は、インターネットを使えば世界中に情報が広がります。情報を受けるたくさんの人たちが、それぞれ情報発信もできるようになっています。ですから、昔とちょっと違うのは、情報の多様化ということと併せ、情報の複雑化ということが発生しています。

情報には、正確な情報と誤った情報がありますけれども、今の時代は「私はこう思う」というような意見・感想や、「こういう風に聞いた」という伝聞・噂話といった、正しいか誤りかわからない、不明確な情報がものすごく多くなります。明確であれば間違いもわかりやすいので、間違いを指摘すればいいし、聞かなければいいのですが、不明確な情報と

いうのは踊らされるんですね。そういった情報でも、インターネットで世界中に発信できるんです。

この複雑化が、どんどん大きくなって何に発展していくか。例えば、「アラブの春」というのはご存じだと思いますけれども、中東地域で民主化運動、いわゆる封建的な政治から脱していこうというような運動が行われています。インターネットでいろんな情報が発信され、いざこざがあった、死者が出たということになると、「民主化運動勢力によるものだ」「政府によるものだ」と情報が錯綜する中で、何が起きるかということ、紛争、暴力になってしまう。このあたりの感覚は、日本にいるとなかなかわかりませんが、宗教や道德といった“価値観”が違う地域では、情報の問題によってこういうことになってしまいます。

日本については、このような地域と比べれば安全で安心ですけれども、情報化社会が進展することによって、特に道德心やモラルということについて、最近はいろいろな価値観がありますから、一定の考え方を押し付けること、強く言うことが出来ない。なかなか一つのことに對して同じ価値観を持って一緒にできない時代、それぞれの価値観を認め合う必要がある時代です。だからこそ気を付けなければいけないのは、日頃の情報、入ってくる情報について、冷静にならなければならないということです。

私は、そういうことが将来的に心配だと思っていて、特に経済が低迷している、犯罪が多発しているというようなところで、どんどん疑心暗鬼になっていく。政治に対してもなかなか不信感をぬぐえない。しかし、日本の政治というのは民主主義です。私も一般市民であり、市民の皆さんから選挙で選ばれて政治をやらせていただいております。

もちろん、重責を担っておりますから、習志野市長として皆さんと一緒に、とにかく幸せな習志野市に向かっていこう、皆さんと一緒にやっていきたい。こういうことの中で、タウンミーティングを企画させていただいて、今回が16回目になりますけれども、皆さんとこうした形でお話しさせていただく機会をいただいたということでございます。

### (3) 本日のテーマ「習志野市のまちづくりにおける中・長期的なビジョン」について

本日は「習志野市のまちづくりにおける中・長期的なビジョン」ということで、まちづくり全般についてお話しさせていただきますけれども、まずは、皆さんがどれだけ習志野市のことをご存知か、ということで、習志野市のことについて振り返ってみたいと思います。

まず、習志野市はどこにありますか？ —千葉県です。

千葉県のどこにありますか？ —北西部です。

では、習志野市には海がありますか？ —あります。東京湾に面しています。

ところが、最近越してきた人や、東京との行き来しかしていない人は、習志野市に海があることを知らない人が多いんですね。

習志野市の面積は大きい小さいか？ —習志野市は、県内の市町村で、浦安市・酒々井町・神崎町に次いで、4番目に小さい自治体です。習志野市の面積は、約21km<sup>2</sup>。雑駁まじまじに

例えば、南北に3 km、東西に7 km、東西に長い市です。千葉県は約5,200 km<sup>2</sup>ありますので、習志野市の面積は、千葉県全体の0.4%しかありません。

習志野市の人口は多いか少ないかという点、多いです。県内で10番目、約16万5千人です。人口密度で言うと1 km<sup>2</sup>あたり7,800人。これは、県内で3番目になります。つまり、コンパクトで密度が濃い。私は、これを「結束力があるまち」と言っています。

習志野には、全国的に有名なことがたくさんあります。千葉県全体の0.4%の面積しかないまちですが、全国に誇れることがたくさんあるんですね。

かつては習志野に軍隊があったことで知られていましたけれども、例えば、高校でいうと習志野高校の野球部、サッカー部、ボクシング部、剣道部、体操部、吹奏楽部など、全国レベルで有名です。

私は、こうした習志野市の魅力を高めていきたい。そして、先ほど結束力があるとお話ししましたが、皆で一丸となって、私も皆さんと触れ合うことによって、私のことを知っていただき、信頼関係を築いていきたいと思っています。施策や考え方というものは人それぞれ異なりますけれども、その信頼関係があることで、例えば、市にちょっとした不信感を持った時に、「市長に直接聞いてみよう」と。そして、直接聞くことができるのが習志野市だと、私は思っています。

お隣の、千葉市の熊谷市長とよく話をしますが、熊谷市長からよく言われるのは「私が習志野市に行くと、宮本市長はどこにでもいますね」と。

千葉市の面積は習志野市の13倍あります。県内で一番大きい市原市は18倍、船橋市は4倍、八千代市は2.5倍あります。それだけ広いですから、それぞれの市民の方に聞くと、市長に会うということがなかなかできないそうなんです。習志野市は非常に小さいまちなので、市長と身近。ということは、「市役所に身近なまち」であるということを知っていただきたいと思います。

そういうことの中で、全国的な「住みよさランキング」というものが、東洋経済新報社というところから出されておりますので、ご紹介いたします。

今回のデータは、全国789市に東京23区を1市として加えた790市を対象にして、順位をつけたものです。

まず総合順位ですが、安心度・利便度・快適度・富裕度・住居水準充実度、これらを総合的にみたランキングは93位です。全国790市中93位、県内で言うと37市中6位です。

この内訳ですが、まず安心度、これは病院の病床数や介護老人福祉施設の定員数、出生数などで出されておりますが、全国で730位、県内で29位です。これは、どうしても大きな病院や高齢者施設というものは、地価の関係等もあって、なかなか都心部にはやってこない。広い土地がある郊外にできている、といったことがあります。

一方で、小売店店舗の面積などから出されている利便度は、全国7位、県内2位です。

汚水処理人口普及率や都市公園面積などから出されている快適度は、全国 31 位、県内 3 位。

富裕度、これは市の財政が潤っているかということと、住んでいる方の所得であるとか、そういうことも含みますが、全国 79 位、県内 10 位。

住居水準充実度は、住宅の広さや持家世帯比率などですが、これは人口が密集していることもありまして、全国 731 位、県内 35 位ということになっています。

これらをすべて含めた総合順位が、全国で 93 位、県内で 6 位ということです。

習志野市のことを紹介する時に、楽観的にもなつてはいけませんけれども、悲観的には絶対ならないでほしい。習志野市も「借金が多すぎて、北海道のまちのように破たんするのでは」と言われることがあります。はっきり申し上げて、習志野市に関しては、財政破たんするようなことは、まず、ありません。

なぜならば、住宅を建てれば住んでもらえるのが習志野市です。これは、首都圏の特徴でもあります。特に東京から 30 分圏内というのは、横浜より近い。

先ほど申し上げた北海道のまちなどは、人が住んでくれない、人口が増えないという悩みがあります。そういうところは、県内を見ても、東京に近い地域と遠い地域では全然違うということです。

では、習志野市内で、この本大久保 1 丁目地域はどうか、ということですが、習志野市の高齢化率が 20.9%ですが、これが本大久保 1 丁目ということでは 24.4%となっておりまして、高齢化率は市内で若干高め、というところでは。

習志野市は、東京のベッドタウンとして、人の入れ替わりが激しいということがありますから、基本的に定住的な、一戸建て住宅が多い地域というのは、どうしても高齢化率が上がってしまいます。今、市内で一番高齢化率が高い地域は袖ヶ浦地域で、30%台の後半、40%近い高齢化率ということで、この辺りも課題であります。

ただ、習志野市全体での高齢化率 20.9%というのは、全国的に見ても若い。これもやはり首都圏ならではのことであります。

習志野市の歴史をひも解いてみますと、習志野市は昭和 29 年 8 月 1 日に市制を施行しました。政令市の千葉市と中核市の船橋市という大きな市に挟まれて、なぜ、こんな小さな習志野市があるのだろうか。

先ほど、習志野市の面積と人口についてお話ししましたが、これは千葉市の稲毛区とほぼ一緒です。千葉市には 6 区ありますけれども、その中の 1 つの区と同じ規模を、習志野は市として運営しています。

そういう意味では、少し前には「なぜ合併しないのか」という話もございました。合併については、昔からそういうタイミングはあったはずですが、そうならなかったというのは、ひとつは、昔の軍の施設があって、近くには軍関係者の方もたくさん住んでいた。要

するに、地元で育った方というより、他県から流入された方が、かねてから多い地域だった。今は、ベッドタウンとして、その色がさらに濃いのですが、もともと「自分たちで作りに上げていくまち」という気持ちが強かった傾向があります。

歴史をみても、二宮や三山や田喜野井の人たちと話し合っ、「自分たちは独立の道を選んだ」というようなことが書いてあります。そういう独特な風土の中で、市として誕生したのが習志野市です。

そして、昭和 45 年に文教住宅都市憲章を定めております。

当時、「千葉市にも船橋市にも負けない、独特のまちづくりは何か」ということを追求した時に、「徹底的に教育と住宅環境にこだわろう」「緑つややかなまち、心豊かなまち」ということで、環境と教育に力を入れました。この前を通っているハミングロードなどは、軽便鉄道敷きの跡ですけれども、こういったものも、鉄道を廃止すると、だいたい普通の道路になってしまうのですが、わざわざ緑道として整備した。この道路は本当に贅沢な道路です。歩くための道路について、古くから、今まさしく求められているものに取り組んでいたということは、「独自のまちをつくっていこう」というひとつの流れです。

最近、市内に大きいパチンコ店が出店してくるという話があります。

昔は『市長が言ったこと』というのはすごく強烈で、「工場は作らせない」と市長がひとこと言えば、実際に工場が建てられなかったというようなことがあったようです。道路についても、皆さん京葉道路はご存知だと思いますが、京葉道路は習志野市内で大きく曲がっています。なぜ曲がっているかという「直線でスピードを出させない」「住環境に配慮して、習志野市内はゆっくり走ってもらおう」というようなこと。あるいは、曲がっているところに残したいものがあるといったことの中で、建設の時に、国と相当ぶつかりあいながらやってきて、道路の形も変えてしまったということさえありました。

ところが今は、法律や条例に関して、守らなければいけないことがたくさんあります。何のために法律が作られているかというと、お互いの利益を損なわないようにするためです。お互いといった場合、当然相手がありますが、相手は誰なのか。例えば、私たちは住民としてここに生活していますが、対比されるものとして「経済活動」があります。

経済活動というものは、皆さんそれぞれ、経済活動の労働者として参画しているわけですから、「生活」と「経済活動」は一對なんですね。その中で、政治の流れで言うと、まず「生活」が前面に出てきますが、「経済活動」に対してあまりに制限があると、支障が出てきます。そうすると、それに対応する法律や条例がどんどんできてくる。世の中が進化すると法律も進化しますから、いろんな法律があつて、今、日本には 250 の法律があると言われていています。そこに、都道府県や市町村の条例、規則などができてきますから、それらを一つひとつ守らなければならない。

そういうことの中で、文教住宅都市にパチンコ店はなじまないという声もいただいておりますが、私としては、経済活動として法律で認められていること、民主主義のルールの

中で認められたものに関しては、住民からの一方的な視点だけではなく、市長としても一定の理解を示さなければならないと考えています。また、一定の理解を示さないことによって、裁判で行政が負けているという事例があるんですね。裁判に負けるということは、やはり、法律に何らかの違反をしているということですから、特に行政として、それはやってはいけない、というのが私の見解です。

ただし、都市計画についても同じように進化しています。習志野市内に大きなパチンコ店ができるからといって、市内がパチンコ店だらけになるかということ、そのようなことは絶対にありません。なぜかということ、都市計画という部分で法律に守られているわけです。本一町会の中に、パチンコ店や高層マンションができるかといったら、絶対にできません。そういう情報も、都市計画図ということで習志野市からお示ししておりますが、こういったことについても、情報化社会の中で、しっかりPRして行って、皆さんに知っていただく必要があるというところでもあります。

昭和29年8月1日に始まった習志野市ですが、おかげさまで、平成26年に市制施行60周年ということになります。60周年を迎えるに当たりまして、市の将来に向かって進むべき方向性を示す大きな方針である基本構想というものを新たに策定して、実施していきます。

そのコンセプトですけれども、まず、文教住宅都市憲章はこれからもしっかり堅持していきます。総称して長期計画と呼ぶ中に、基本構想、基本計画、実施計画があります。

長期計画の期間ですけれども、文教住宅都市憲章については、私は無期限だと思っておりまして、これについては期限を定めておりません。基本構想については、平成26年度から12年間。その中で、基本計画・実施計画をそれぞれ分けております。

基本構想は、この12年間の想い。習志野市として、こういうことを達成していこうという想いであります。

基本計画は、その想いを達成するために、こういう施策を行っていく、という計画で、実施計画はさらに具体的なもの、というふうにご理解いただければと思います。

将来都市像として、この12年間、これで行こうというのが、「未来のために～みんながやさしさでつながるまち～習志野」というものです。

これには、先ほどからお話してきました通り、情報化社会にあって複雑化という問題があり、いろいろな危険性をはらんでいる中で、まず、人としての優しさというものをみんなで見つめなおして、そして、つながって行こうという意味が込められています。それは何のためかといえば、未来のためです。

やはり、人間というものは、3年後のことより明日のこと、もっと言えば、今現在のことを優先するわけですが、あえて自分たちの子どもや孫のために、あるいは、そこから代々続いていく自分たちの子孫のために、ということで、「未来のために」という言葉を入れさせていただきます。

今の基本構想は、平成 13 年度から実行してきておりますが、「市民一人ひとりが夢と輝きをもって自己実現できる都市（まち）習志野」ということでやってまいりました。

『自己実現』ということが当時のキーワードになっていましたが、これはある程度達成できたのではないかと、ということの中で、今度は、自己実現できた後のまちをどうしたらいいのか。自分のことだけではなくて、皆でつながって行こうということ、で、「やさしさでつながるまち」とさせていただきます。

次期基本構想の体系ということでお話しさせていただきますと、未来のために、みんながやさしさでつながるために、「健康なまち」「快適なまち」「心豊かなまち」という、大きな目標として3点を掲げております。

言うまでもなく、人間の生活は健康であることによって、充実度が高まります。そのために、私たちが健康で豊かに過ごすためにはどうすればよいかということを追求していこうというのが、この「健康なまち」ということです。

この「健康なまち」にはいろいろな意味が含まれていて、今、少子高齢化社会にあります。特に財政状況は、これから非常に厳しくなっております。その要因というのは、端的に言えば、60 歳までは皆さんお勤めになっていて、お給料から税金という形で市や国に納めていただいているわけですが、概ね 60 歳を超えて退職されますと、「習志野市を支えてくれた」「国を支えてくれた」という意味合いを含め、今度は年金という形で支給されます。まさしく社会保障という形で、皆さんの生活をサポートしていくということになります。

そういうところは、経済状況、あるいは社会インフラへの設備投資等々が密接に絡み合います。必ずしも、常に景気が上向いているとは限らないわけです。そういうことの中で、景気が低迷していて、社会インフラもいろいろな課題を抱えている。老朽化した施設を一斉に建て替えなければならないといったこと等々、たくさんお金が必要になってくるといふ世の中にあって、社会保障なども含め、圧倒的に支出が多くなる。それに比べ、少子化が進むということで、生産年齢人口、いわゆる働く世代がどんどん少なくなってきます。

習志野市の場合、20 歳以下の年代は、1 歳あたり約 1,500 人です。一番多い年代は、私と同じ 40 歳前後の年代で、1 歳あたり約 3,000 人います。ということは、子どもは 1 歳あたり、私たちの年代の半分しかいないのです。70 歳代後半の年齢の人口が 1,500 人くらいですから、75 歳以上の方々の各年代の人口と、20 歳以下の各年代の人口がほぼ一緒です。このことから見ても、非常に厳しい状況であるということがお分かりいただけると思います。

そういうことを考えていく中で、やはり皆さんが健康で、生き生きとして、自助・共助の精神を発揮していただくということ。これまで、この社会を築き上げてきた皆さんには申し訳ないという気持ちもありますけれども、これからの未来に向かって引き継いでいくという優しさで、ぜひご協力いただきたいところでもあるわけでございまして、こういうことも含めて「健康なまち」ということをございます。

併せて、資料にあります通り、「快適なまち」として、危機管理や防災・防犯の推進、良質な都市基盤の整備、自然と調和した環境づくりの推進。「心豊かなまち」として、子育て・子育ての支援や教育の向上などを目指して、これからも実行していくとございます。

習志野市は首都圏にあるまちであること、東京に近いということの中で、財政環境も都市環境も決して悪くない。むしろ、良い方です。これをしっかりと持続していくためにはどうしたらよいかということ、これから考えていかなければなりません。

その中で、今の一番の課題としては、高度経済成長期に建てられた公共施設、これは学校も含めてですが、これがことごとく老朽化してきており、新しく建て替える必要があります。

ただ、新しく建て替えるための財源は、主に皆さんに納めていただく税金ですから、税収が今どうなっているかということを見る必要があります。少子高齢化の中で、どちらかという、入ってくるお金よりも出ていくお金の方が多いという状況で、これから先も、出ていくお金は増えていく。しかし、そうした中でも、公共施設の建て替えにかかる費用は必ず必要となるお金で、削れないということです。ですから、当然収入に見合った、収入と支出のバランスを見ながら、公共施設を建て替えなければならないという中で、「公共施設再生計画」というものがあり、いわゆる施設の統廃合等をして、スリム化していこう、改善していこうという流れがございます。

これはほんの一例でありまして、いろいろな施設、いろいろな施策に関しまして、お金がかかることについては、同様のことを考えていかなければならないというのが、これからの時代であります。

習志野市は「小さいけれども、結束力のあるまち」と言いましたけれども、まさしく市民一人ひとりが「自分たちがまちを運営している」という当事者意識を持っていただかなければいけないと思っております。民主主義では、主権者はあくまで国民、市民ですから、そういった気持ちを少しでも高めていただく中で、この本一町会さんのように、いろいろなことに果敢にチャレンジしていく、公園清掃なども自分たちでやるというようなことが、習志野市全域に広がっていけば、というのが私の結論であります。

今後とも、皆さんそれぞれの技能、才覚をぜひとも習志野市に注いでいただいて、習志野市の発展に寄与していただきたい、このように思う次第でございます。

暑い夏、健康管理にも十分ご留意いただいて、皆で一緒にがんばりましょう。

ありがとうございました。

#### **(4) 質疑応答、意見・要望等**

##### **【質問・意見等 1】**

これからの世の中は、市長の言われる通り、一人ひとりが政治家的なものの考え方をしなければならない。そういった中で、基本構想、基本計画を考える時に、市の何々担当というイメージで作られていると思うので、もっと横断的に、このまちをどうしていくか。例えば、せっかく緑がある、緑豊かなまちにすることで、公の部分と私の部分ということも含め、横のつながりという観点で考えていただき、もっと具体的な内容を記していただければと思う。

##### **【回答 1】**

基本構想の下にある基本計画の策定も同時に進めている中で、緑のまちづくりということも入っております。縦割りということについては、基本的にどうしても縦割りになってしまう部分がある中で、やはり横断的な部分は必要だということで、これは緑のこと、子育て支援、健康などもそうですが、そこはしっかりと描いていきたいと思っております。

##### **【質問・意見等 2】**

基本構想、基本計画の中で問題点としてとらえている少子高齢化について、高齢者の問題として言われているのは介護や医療費にお金がかかるということだが、やはり高齢者からすれば、元気であるのが願いである。

医療費や介護費を減らすためにも、日頃から高齢者が元気であることが重要で、我々もみんな元気で活動しているが、そのベースは、リーダーがいる、公園がある、集会所があるということ。

施設の統廃合などを行うとのことだが、高齢者が元気であるための施策として、公園や集会所を利用して、こういう活動ができるように考えていただきたいと思う。

##### **【回答 2】**

ご指摘はまさしくその通りだと思います。

公共施設の再生計画というものは、市の税金を使って大きな施設を維持管理していくことを見直していこうとしているもので、一方で、小さな集会所の管理などは、なるべく自助・共助に委ねていこうという考えもあります。そういう意味では、町会の活動などは、補助金は入っておりますけれども、後は共助でやっていただいているわけです。こういったものに関しての補助は、公共施設を再生していく代わりに、という部分でもあると思っております。

災害でもそうですが、まずは自助、そして共助をやっていただくという中で、今おっしゃったようなことは大変重要だと思っております。

### 【質問・意見等 3】

公共施設再生について、現在 800 億円くらいの借金があって、これからの財政運営をどう考えているのか。中央公園に、図書館や公民館といった施設を一括して建てるという構想があると聞いたが、集約化するのはいいのかもしれないが、立派なものを建てると建設単価や維持管理費など、財政に対する影響がどうなるのかという心配がある。また、市の財政に占める割合が大きい人件費や物件費についても、真剣に取り組んでいかないといけないのではないか。そういう具体的なことをお知らせいただきたい。

### 【回答 3】

まず人件費についてですが、職員の人件費＝市民サービスとお考えいただきたいと思います。

いろいろな要望、ニーズがある中で、サービスの水準もあがってきておりますが、サービスを実行するためには職員が必要であり、お金がなければできない。財政力が必要になってきます。

習志野市は、先ほどお話ししました通り首都圏にあって、たくさんの方に住んでいただいているということで、財政状況は良いことから、全国水準を上回るサービスを行っております。近隣市で行っているサービスに加え、習志野市独自に行っているサービスもあります。その代表的な例が市立幼稚園です。

こども園を含め、市立幼稚園は市内に 15 園ありますが、千葉市・船橋市・八千代市では、市立幼稚園はゼロです。当然、15 園の教員は市の職員であり、人件費は上がります。この他に、市立保育所やヘルスステーション、市立習志野高校などもそうです。まさしく、文教住宅都市ということにしっかり取り組んでいこうという精神の中で、こういったものが全国水準より上乘せしている部分です。

ただ、これは財政環境が右肩上がりであればよいのですが、税収が下を向いて、今後、独自のサービスを縮減していかないと、通常のサービスさえできなくなる、ということを想定して、公共施設再生計画や、幼保一元化といった施策をやっているということです。また、習志野市は、市民一人当たりの公共施設の面積も、他市に比べ広いんですね。こういったところを皆さんにご理解いただきながら、やっていかなければならない。

次に、借金のことについて、習志野市の 800 億円の借金のうち、その半分は下水道整備にかかるものです。

借金をしない、ということはどういうことかということ、今いる人が全て負担する、ということ。下水道などは特にそうですが、未来永劫使い続ける設備の整備には、今いる人だけではなく、この先使う人も公平に負担することが望ましいということから、国から「借金をして整備しなさい」と言われています。

また、国は約 80 兆円の財政に対し 800 兆円の借金ということで 10 倍、市は 500 億円の財政に対し 800 億円の借金ということで 1.6 倍です。

こういうことからすると、借金ということについては、私はそれほど心配していません。むしろ、これからの人口動態や経済状況、将来の負担ということを考えつつ、必要な事を効果的な手法で、それが借金であるならば、それをうまく使いながらやって行こうと考えています。

#### 【質問・意見等 4】

幼稚園の話が出たが、この地域にあるつくし幼稚園について、廃止すると言われて、また継続するとなり、今あやふやな状態となっているが、今後どうするのか。はっきりしないと地域の人も困るので、その辺りの考えを聞かせてほしい。

#### 【回答 4】

つくし幼稚園については、当初は廃園もしくは私立化ということで進めておりましたが、国の施策が大きく変わってきた中で、いったん止めました。今後の方向性については、基本的には私立化の方向でいきたいということで練っております。

平成27年から「子ども子育て関連3法」がいよいよ施行されますが、先ほど申し上げた通り、市立幼稚園には人件費や建物の維持管理費がかかっています。ただ、子どもを育てること、少子化対策というものは重要であるという観点から、廃園ではなく私立化の方向で進めていこうということが習志野市の考え方です。

#### 【質問・意見等 5】

習志野市に住んでいてよかったと思うことが2つある。

1つはお墓のことで、昨年、配偶者が亡くなり、少子化でお墓を守っていく人がいないということで市に相談したら、合葬という方法があるとの説明を受け、非常にありがたかった。親戚も友人も「習志野市はいいね」と言っていた。前から持っていたお墓の返還も、きちんと対応していただいた。

もう1つは、手続きのために市役所に行った時に、市の職員の対応がとても親切で、どこの部署に行っても、うれしい対応をしていただいた。

資料に「心豊かなまち」とあるが、市役所の職員にも親切に対応していただき、また、今日のお話を伺って、習志野に住むみんなが心豊かになればと思う。